平成28年度作業療法推進パイロット事業助成報告

鹿児島県作業療法士協会事業
「自動車運転と作業療法士の介入について」

～運転再開支援の施設間（離島・遠隔地）を跨いだ連携及び統一評価の作成～

一般社団法人　鹿児島作業法士協会

運転介入に取り組むきっかけ

- さまざまな疾患を罹患し、退院後に運転再開を求める声は以前より聞かれていたが、一個人では介入が難しく、一施設としても教習所や公安委員会など、運転に関わる他職種との関わりを作るには、大きな壁を感じていた。
- 報告者の周囲でも、運転介入に意欲的なスタッフは少なく、鹿児島県士会にも運転介入に関する事業はなく、意見討論の場すらも恵まれていない状況だった。

作業療法士の職域とは？

当時の状況（平成26年度～）

- 当時の運転介入について、教習所と勤務施設との連携から実車評価の内容を話すものや、運転シミュレーターの導入について、その活用を話すものが多かった。

⇒上記の無い施設に関わった対象者には格差が生じているのか？　シミュレーターの導入や教習所との連携がない職場は何もできないのか？

- 運転介入はＯＴの職域ではないのではないか？という意見もあった。

⇒運転に限らず、「職場の中で狭められない、施設を跨いだ自由なＯＴ介入の討論場が欲しい！」との声が周囲のＯＴにあった。

↓

教習所との連携もなく、シミュレーターの設置もなく、充分な症例数も無いＯＴが、運転に特化して取り組むＯＴの少ない鹿児島において、取り組む姿勢を示せれば、今後の他ＯＴの活力になるのではないか？

社会的背景
Ｈ１５年からＨ２４年までの車両事故の推移

高齢ドライバーによる事故

報道ステーション　H28年11月15日　放送

2004～2014年高齢者の事故は2倍に増加

Ｈ２７年中の鹿児島県内交通事故の発生状況

77人中
55名が
高齢者

区分	発生件数	死者数	傷者数
H27	８，０３４	７７	９，５４２
H26	８，４２５	９４	９，８８７
増減	－３９１	－１７	－３４５

Life Skills研究会の発足へ（Ｈ26年）

- 施設を越えたＯＴの関係構築を目指し、「同好会」的な立ち位置で、７市１島をつないで発足。

（当初８施設19名）

運転を含めた、自由な意見の討論場、情報を持ち寄れる場を目標に！

- 他県のＯＴと話す中で、連携失敗の事例も学び、連携方法を検討

行ったこと①

クラウドサービスの活用

研究会内でクラウドを持ち、文書やニュースなど共有できる情報を互いに保存・閲覧できるように整備

文書などを遠隔地でも同時に作成・閲覧できるように整備

その運転で充分安全じゃない？
意見あり！

当時の課題

- 運転に限らず、いろんな意見を言える場を作ろうとしたが、ＯＴの中だけで終わってしまうことが多く、他職種と関わるには同好会である以上、社会的な立ち位置がなかった。
- ＯＴと運転について、職域を啓蒙・啓発するにも、鹿児島県内では認知度が低かった。
- 施設を越えた関わりの際に、どのような集団なのか説明に苦慮した。

日本作業療法士協会
パイロット事業助成金　受諾

- 高齢者・障碍者の自動車運転再開に関する研究事業
- 他職種との連携構築と他ＯＴへのフィードバック
- 自動車運転再開に関するフローチャート作成
- 施設間・職種間を越えた関わりの体系化
  Ｗｅｂ環境の補強

プロジェクト スケジュールとロードマップ

今回の
報告部分

Ｈ26･27年度

- ＬＳ研発足とＯＴ内の意見交換
- ＯＴ間の連携を構築

Ｈ28年度　パイロット事業受諾

- パイロット事業としての立ち位置を元に、運転に関する他職種との連携構築や意見交換会を実施
- 他職種へのＯＴの啓蒙とＯＴ内で共有できる運転介入

Ｈ29年度　鹿児島県士会特設事業「高齢者・障がい者の運転に関する検討委員会」

- 他職種との連携を密に、前年度に関われなかった所への連絡
- 各種研修会の実施
- 施設間で共有できる運転介入フローチャートの作成と情報の整理

岡山県の運転介入に関わる２医療施設・２自動車学校へ視察

南九州自動車学校・宮崎県公安委員会への視察

指宿自動車学校・福祉自動車改造メーカーらとの意見交換会実施

串木野自動車学校の視察と意見交流

鹿児島県議　寺田議員・鹿児島県警（免許センタースタッフ）との意見交換

その後、作業療法士と運転介入についての有用性を、鹿児島県議会にて一般質問で挙げていただきました。

・鹿児島県高次脳支援センターにて
　研修会発表
・蜂須賀教授

参加者120名程度

会員向け研修会
（鹿児島県作業療法士協会
教育部主催）
2回実施
参加者合計　200名程度

鹿児島作業療法士協会　研修会

県警・南九州自動車・永野医師

らとの運転意見交換会

参加者一〇六名

アンケート結果（自由意見：抜粋）

- 無用な事故を減らし安全な生活を送るためにも（運転介入への取り組みは）大切なことだと思います。今後もがんばってください（ＯＴ）
- 自動車学校に片麻痺ということで断られたことがある（ＯＴ）
- 相談されたがどこにどのように話を進めていったらいいのかわからず、運転再開については退院後に先送りになりアドバイスすることができなかった（ＣＭ）
- 離島ということで、車がとても大事な交通手段となっています。評価の依頼も年々増えている印象を受けます。情報提供などありましたら宜しくお願いします（ＣＭ）
- 教習所との連携がないこと、院内での運転再開の基準が決まっていないことに難渋している（ＳＴ）
- 自動車運転再開で悩んだ際、たくさんのセラピストに助けられ、運転復帰が可能になりました（ＯＴ）
- それぞれの職種の方の話を聞くことができた。大変勉強になりました。（ＳＷ）
- 免許返納を家族と一緒に説得しましたが、後日、自殺された方がいました。（一般：家族の会）

アンケート結果のまとめ

- 満足した度合いでは、回答者中95%で「満足した」以上の回答が得られた。
- 運転介入については、それぞれセラピストごとに悩みを持っているが、職場内・外に限らず、連携が上手くいっていない現場の意見が多く寄せられた。
- 他職種の生の声を聞けたことに関する喜びの声がもっとも多かった。

<u>自由記載では</u>

鹿児島県士会での運転介入について、継続的な活動を望まれる声が多かった。

鹿児島の土地に関して、離島や山間部を含めた、それぞれの地域に見合う考え方や介入方法の作成が望まれた

他職種意見を取り入れた意見交換に加え、対象者目線での今後のかかわりに希望が多かった

パイロット事業を通して得られた点

ネットワークの構築①

テレビ電話での会合参加

共有文書などクラウド保存

遠隔地同士で文書作成の分担
など

WEB中継で積極的活動

種子島のメンバーと同時対談

鹿県内での活動が活発化！
㊀意見の集約
㊁事例・データベースの構築

ネットワークの構築②

鹿児島県警（免許センター）

福祉自動車改造メーカー

鹿児島県議会議員

指宿自動車学校

南九州自動車学校

串木野自動車学校

岡山県作業療法士会

宮崎県公安委員会

元潤和会記念病院医師

宮崎OT　岡山OT

鹿児島OT

足を運んで積極的活動

鹿県内・外でのネットワーク

㊀情報収集

㊁データベースの構築

ネットワークの構築③

遠隔地・離島を考慮し、WEB中継も用いて積極的活動の実施

鹿県内での活動が活発化！
①意見の集約
②事例・データベースの構築

足を運んで鹿県内・外での積極的活動

鹿県内・外でのネットワーク
①情報収集
②データベースの構築

鹿県内「高齢者・障がい者の自動車運転検討委員会」の設置(H29.4)
①鹿県内の自動車運転に関わる相談窓口
②情報提供および発信
③運転と作業療法研究会（OT協会）と今後どのようにつながっていくか？

反省点・難しかった点

- 作業療法士が運転も職域に持つ、ことを知らない作業療法士へ、また他の医療職、加えて作業療法士を知らない県警・県議などへ、ＯＴの存在やＯＴの職域を説明するのに困った
- 成果報告が曖昧。協会事業である以上、職場を越えて連携と活動が行われるのが当然だが、倫理委員会や個人情報とその取り扱いに関する各職場への責任所在が無いため、動いた内容の学会発表は難しく、行動内容をＯＴ内へ発表するにも発表内容の加減に判定材料が無いため、実質的に何も言えなくなってしまう。
- 結果、県内ＯＴへ向けた統一評価は、それぞれの勤務先が持つ検査バッテリーに違いがあり、共同研究などを行う環境の難しさから、エビデンスの蓄積が難しく、統一評価作成は困難と判断。

↓

代案として、鹿児島県内で行える運転介入フロー作成と、必要なエビデンスを持つ文献・発表資料の集積・整理をＨ２９年度より行う。

他県士会へ活用が可能な点①

日本作業療法士協会のパイロット事業という名前の活用の仕方

- 運転介入について、介入症例数・施設環境・実績等すべてにおいて先進的な他施設へ遠く及ばない作業療法士の呼びかけにも関わらず、賛同してくださったパネリストや作業療法士、県警、県議など職域を越えて多くの声を集めることができ、さらに来年度の活動や、未知の職域の関わりと開拓へ道がつながった。

Ｗｅｂサービスの活用

- ⇒鹿児島では、離島在住のＯＴも多いが、環境的に参加できる研修会や協会活動が少なくなっていた。今回のＷｅｂの活用を経験して、他県でも都市部より遠隔地に住むＯＴへ活用が望まれる。
- ⇒文書作成→送付→返信待ち→返信を見て内容修正→返信待ち・・・

・・・の流れが無くなり、郵送やFaxなどの経費もタイムラグも無く、まったく同時に話しながら、文書作成や資料閲覧を共同作業で行えるクラウドは、他県士会でも活用が可能と考える。

他県士会へ活用が可能な点②
Webの応用と遠隔地をつなぐ試案

- 離島（種子島）メンバーより

「他県の研修会だけでなく、本土（鹿児島）での県協会が行う現職者研修会や勉強会にも、交通費や渡航時間の関係でなかなか参加ができない。」

「なにより、OT同士で話し合う場が欲しい」

との意見が以前より聞かれていた。

Webを用いて遠隔地の取り組みをつなぐ試案

- 岡山より、OT主導による運転関連職種との研修会開催の案内

→鹿児島と岡山を、試験的にWebでつなぐことができないかを打診

- プロユースの機材や予算は投じず、あくまで素人が揃えられるソフトウエアと知識で岡山の研修会を、ダイレクトに鹿児島へつなぐ

まとめと今後の展望

- パイロット助成以前より、勤務施設を越えたＯＴの関わりとＷｅｂの活用をすすめていたが、資金・活動範囲ともに限界があった。
- 今回のパイロット助成と鹿児島県作業療法士協会の立ち位置によって、一作業療法士が職域を越えた他の団体へ関わりを持ち、そこから得られた知見を元に、職場を越えてＯＴ同士が検討し、それを持って更に他職種へ関わりを模索できる・・・社会的な立ち位置により、鹿児島県のさまざまな職能団体へ今後もＯＴの啓蒙・啓発が可能と考えられる。
- また、今回、鹿児島は宮崎や岡山はじめ多くの他県のＯＴや運転介入職と関わることで、大きな経験を得ることができ、今後につながる貴重な機会を得ることができた。それもひとえに鹿児島県ＯＴ協会事業にパイロット事業の立ち位置が加わったからこそ、他県の職能団体が私たちの取り組みに興味を持ってくださった部分があった。
- 各県ＯＴ協会が運営する既存事業に加え、新たな取り組みや試みがあった場合に、パイロット事業はそれを活かす起爆剤となり、県内・県外のＯＴを紡ぐ一事業として有用であると考える。
- 今後も全国のＯＴの取り組みが何かしらかの形で支援されていくことを望みます。

県・職場を越えたカンファレンス

藤田委員長

指宿在住OT

筆者

次男
（当時３歳）